

JCCP NEWS

CONTENTS

JCCP

認定 NPO 法人 日本紛争予防センター

2011 年 1 月 31 日発行 / No.18

p.2-3… 特集 ケニア

暴動の記憶／現地ボランティアスタッフからのメッセージ／ IPSTC：実務家養成研修

p.4 … ケニア：コミュニティ再生への歩み

p.5 … スーダン：人として、子どもとして／マケドニア：新たなプロジェクトが始まります

p.6-7 … トピックス／プロジェクト一覧／ JCCP カレンダー

p.8 … ご支援のお願い



あらためまして、JCCP です。

JCCP のロゴが新しくなりました。
タンポポをモチーフにしたシンボルマークには、
私たちの活動から、紛争地に新たな平和の種が
蒔かれ育つようにとの願いを込めています。

(6 ページに関連記事)

Kenya

暴動の記憶

報告：高井史代（JCCP 在ケニア代表）



『マザレスラムの子どもが描いた暴動の記憶』

JCCP が行う子どもへの心のケアのプロジェクトにおいて描かれたもの。
恐ろしい暴動の記憶が、子どもたちの心に今も大きな傷として残っていることが解る。

スラムの子どもたちへの心理ケア

*このプロジェクトは、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、
独立行政法人国際協力機構（JICA）、財団法人日本国際協力財団（JICF）、
MS&AD スマイルハートクラブ様からの助成により実施しています。

＜厳しい状況におかれた子どもたち＞

◇ 10 歳の女の子

キクユ族のお母さんがルオ族の男性と再婚したが、その継父から家庭内暴力を受けている。（キクユ族とルオ族は大統領選挙後に激しい衝突を起こしている。）

◇ 年齢不明の男の子

不妊症の女性が、2～3 年前に養子にした男の子を虐待しているという情報が近隣住民から寄せられた。女性は財政状態が苦しく男の子は学校に通うこともできずにいる。

◇ 14 歳の男の子

家計を助けるために麻薬を売り、自分でも使用している。（両親や近隣住民が薬物を販売することで生計を立てている。）

2007 年の大統領選挙後の暴動の影響が残る首都ナイロビにあるスラム街、「マザレスラム」で、JCCP は現地のボランティアの若者たちと協力して、子どもたちへの心のケアを行いました。

スラムの地域の中にセラピールームと呼ばれる活動拠点を 7 か所設置して、そこに集まる子どもたちの様子をスタッフがモニタリングし、問題を抱える子どもがいたら個別に心理的なケアを行う取り組みです。

その活動が続ける中で、暴動時に体験した恐怖によるトラウマの他にも、スラムの暴力や犯罪、薬物やアルコールの被害、貧困や保護者の無関心など、子どもたちにとっての様々な問題が明らかになってきました。

◇ 地域のボランティアとともに

この様な子どもたちを対象に、ケニアのマザレスラムで子どもの心のケアにあたっては、コミュニティ・アニメーターと呼ばれるボランティアのスタッフたちです。

コミュニティ・アニメーターたちには、

子どもたちと接する前に、ナイロビの心理カウンセリング専門機関で事前に研修を受けてもらい、心理的な問題を抱えた子どもの見分け方やその症状の重さの見極め方を学んでもらいます。さらに、心理ケアに関する研修や、心理療法の専門家との事例検討会を定期的に実施して、様々なトラブルを抱える子どもたちに対応するための能力を高めてもらっています。

また、実際のケアにあたっては、特に症状が重かったり複雑な事情を抱えていたりする子どもに対しては、必ず専門の医療機関に報告し専門家による治療が受けられるようにしています。

◇ コミュニティーへの想い

コミュニティ・アニメーターはマザレスラムに暮らす若者たちが中心となって構成されています。若者たちは自分たちのコミュニティをより良くしたいとの思いから、このプロジェクトに無報酬のボランティアで参加しています。

こうした若者たちの存在は、地域の人々

のコミュニケーションを活性化させ、自分たちの問題は自分たちで協力し合って解決しようという人々の意識を高めることにもつながっています。

「コミュニティ・アニメーター」という名前は、「コミュニティを生き生きと動かす人」という意味を込めてつけられました。(animate=「生命を吹き込む」という意味)

マザレスラムにおける子どもへの心のケアプロジェクトは、若者たちを中心に人々の絆を強め、地域の生活環境を改善しようとするコミュニティの力を向上させていくきっかけにもなっています。



子どもたちが遊ぶ様子を見守るコミュニティ・アニメーター

心理ケアの対象となった子どもたちを集めてのイベント
「チルドレンズ・デイ」ではしゃぐ子どもたち



コミュニティと子どもたちを元気にしたい！

現地ボランティアスタッフからのメッセージ

日本のみなさん、こんにちは。僕はウォルター・アマディです。

JCCP の「子どもの心のケアプロジェクト」でコミュニティ・アニメーターとして活動しています。元々コミュニティのスポーツクラブでコーチをするなど、マザレスラムの抱える問題、特に子どもたちを苦しめている問題に積極的に取り組んできました。JCCP のプロジェクトに参加して、自分たちの活動が、コミュニティに少しずつですが確実に良いイン

パクトをもたらしていることが実感でき、とてもうれしく思っています。

一方、マザレスラムはとても大きいので、同じような支援を必要としている地域や子どもたちがまだまだ取り残されています。

僕は、これまでに築いた人間関係と経験を活かして、もっと活動の範囲を広げて、より多くのコミュニティや子どもたちをもっともっと元気にしていきたいと考えています。



明るいキャラクターで、子どもたちや仲間からも慕われているアマディ

IPSTC 実務家養成研修

*このプロジェクトは、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、国連開発計画 (UNDP) からの助成により実施しています。

JCCP は 2010 年 2 月から、ナイロビ (ケニア) の国際平和支援訓練センター (IPSTC: International Peace and Support Training Centre) が主催する平和構築と治安維持のための研修カリキュラム立案と訓練の実施を行っています。

この研修プログラムの会場でもある IPSTC は、ケニア、スーダン、ウガンダ、ソマリアなど東部アフリカ諸国の政府関係者や軍人、警察、文官、また同地域で活動する NGO や国連の職員などを対象に、平和維持や平和構築などの専門的な訓練を提供している研修機関です。

JCCP は 2010 年の下半期において、SSR* 研修と DDR** 研修のふたつのカリキュラムを実施しました。

10 月の SSR 研修では、海外事業統括の安富淳のコーディネートにより、架空の紛争国を設定して治安を改善するための方策を考える参加型プログラムを実施しました。また、12 月の DDR 研修では、事務局長の瀬谷ルミ子が、DDR の進め方や子ども兵の保護の方法などについての 2 週間の研修のリード講師を務めました。

*SSR (Security Sector Reform)

「治安部門改革」

軍隊や警察、司法制度など治安に関する部門の改革を通じて国家の治安維持能力の向上を目指す取り組み。

**DDR (Disarmament, Demobilization, Reintegration)

「武装解除、動員解除、社会復帰」

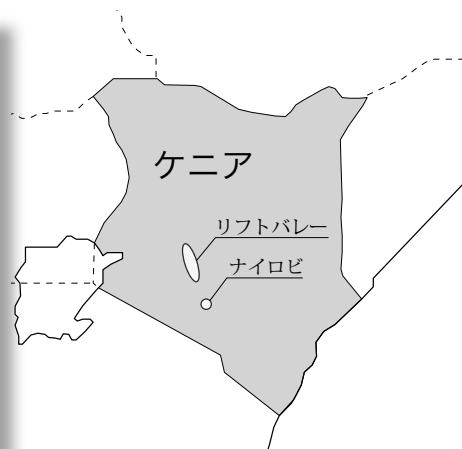
元兵士らから武器を回収し、職業訓練を行うなどして、社会に復帰させる取り組み。



10 月の SSR 研修にて東部アフリカ諸国の軍人や文官などを前にレクチャーする安富淳 (JCCP 海外事業統括)

Kenya

コミュニティ再生への歩み



ー 平和構築への新たなステップ

ケニアでの JCCP の活動は、2010 年 3 月まで取り組んできた国内避難民への住居建設や給水施設の支援といった緊急援助を終え、新たな段階を迎えています。2010 年 4 月からは、地域のグループによる小規模ビジネスの立ち上げに対して、専門家による指導とマイクロファイナンス（小規模な融資）を行うことで、生計の向上とコミュニティの能力を強化しています。

自立と共生のために

ー 事業経営の経験がコミュニティの強化に

国内避難民の再定住の地として生活の再建が急がれるリフトバレー州の中部地域（ナイバシャ県およびナクル県）では、住民グループによるヤギやニワトリなどの家畜を利用した生計向上事業を実施しています。JCCP は住民グループに経営指導を行い、家畜小屋の建設の材料費や家畜購入の初期費用を支援しています。

一方、異なる民族が混在し、人々の貧困による不満から暴動の再発が心配されるナイロビのマザレスラム地区では、テントや椅子のレンタルビジネスや灯油の小売業、託児所サービスなどの小規模ビジネスの立ち上げと運営を支援しています。

こうした事業の経営主体である地域のグループは、協同でビジネスを実践することを通じて、組織の運営や経営に必要なマネジメ

ント能力を高め、コミュニティ全体で自立に向けて進んでいます。

ー コミュニティの力を共生に活かす

このようなコミュニティの活動を通して、異なる民族やグループがお互いの理解と協力関係を深めています。

例えば、リフトバレーでの家畜事業では、新たにこの土地に住み始めた国内避難民グループと以前から住んでいる住民グループが、共同で家畜の販売や交配を行うことで両者の交流を増やし、対立を減らし、相互理解を深めています。

住民の自立に向けた小規模事業への取り組みによって、暴動後のケニアにおける新たな共生関係が築かれつつあるのです。

報告：高井史代（JCCP ケニア代表）



羊の育成事業の参加者に羊を配付



マザレスラムで始まった託児所サービス



スラムではコーラのビンで灯油を小売することが多い

*このプロジェクトは、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、独立行政法人国際協力機構（JICA）、財団法人日本国際協力財団（JICF）からの助成により実施しています。



Sudan

ストリートチルドレンのアート作品展

*このプロジェクトは、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームからの助成により実施しています。

JCCP はジュバ市内において昨年の 11 月 12 日から三日間にわたり、ストリートチルドレンが作ったアート作品の展示会を開催しました。

これは、ストリートチルドレンの生活環境向上を目指した啓発活動の一環として、子どもたちが制作した絵画や粘土工作の作品を集めて、現地のパートナー団体である CCC (Confident Children out of Conflict) と共同で実施したものです。

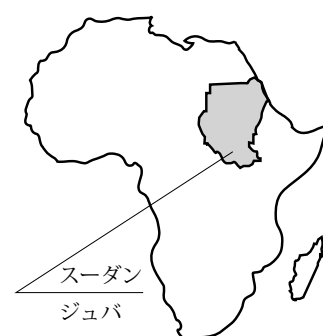
オープニングセレモニーには南部スーダン政府の福祉担当者も出席し、地元のテレビ局や新聞も取材に訪れました。

ストリートチルドレンにとって、このア

ートワークプログラムに参加することは大切な意味を持っています。

それは、①自分自身の心の内面を表現する機会を得て、②集中して何かに取り組み、結果を出す体験を重ねながら自信を深め、③作品について、指導する大人たちと対話したり、自分の作品を発表する機会を得ることで社会とのつながりを感じることができる、といった効果をもたらすからです。

また、今回の作品展はジュバ市民にプロジェクトへの関心を持ってもらうことにもつながり、ストリートチルドレンに対する偏見をなくしていくきっかけにもなっています。



報告：中西美絵

(JCCP ジュバ事務所 プロジェクト・コーディネーター)

Macedonia

2011 年 1 月、新たなプロジェクトがはじまります。

草の根の民族融和のために

報告：松元 洋 (JCCP バルカン代表)



JCCP は、バルカン地域で 2009 年にセルビアのブヤノバツ市、2010 年にマケドニアのスツルガ市で子どもたちを対象とした共生プロジェクトに取り組んできました。旧ユーゴスラビアにおける紛争の後、異なる民族の間で緊張関係が続く地域が他にも存在します。

マケドニア共和国のペトロバツ郡では、マケドニア系、アルバニア系、ボスニア系、セルビア系など複数の民族が暮らしていますが、学校では、民族によってクラスや授業時間が分けられていたり、異なる民族の子どもたちが互いに接する機会が限られています。そのため、紛争から 10 年たった今も、民族間の交

流が進まない状況が続いています。

一方で、マケドニアでは国を挙げての植林活動が盛んで、植林のための国民の休日も設けられています。

JCCP は人々の関心と共感が得やすいこの植林活動を軸に、ペトロバツ郡で草の根レベルでの民族間交流を促すプロジェクトを行います。

自分たちの暮らす地域に緑を増やし災害を防ぐという共通の目的を掲げることで、異なる民族の小学生と住民に集ってもらい、共同で植林作業を行いながらお互いの理解を深め、共存していく意識を高めるための取り組みです。

*このプロジェクトは、JCCP 会員や寄付者の皆様からのご支援と、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力の助成金により実施しています。

第 18 回通常総会が開催されました

2010 年 9 月 27 日 於：JCCP 東京本部会議室

第 18 回通常総会が東京本部会議室で開催されました。総会の議長に選出された明石康 JCCP 会長の議事進行により、平成 21 年度の事業報告と収支決算に関して報告と質疑応答の後、承認の賛否が諮られ、いずれも全会一致で承認されました。

質疑では、今後の海外事業の展開の見通しや現地での安全基準の確認、広報戦略についての意見交換、ファンドレイジング活動を活発にするための戦略に関する協議など、例年に増して会員や参加者による活発な意見が交わされ、充実した総会となりました。



札幌や神戸など、遠方からも出席いただきました。

MS&AD スマイルハートクラブ様からの助成決定

2010 年 11 月

昨年度に続き、2010 年度も MS&AD スマイルハートクラブ様からの助成をいただきました。

「MS&AD スマイルハートクラブ」は MS&AD インシュアランス グループの社員の皆様による社会貢献活動団体です。

去る 11 月 24 日には、JCCP からの助成申請を推薦していただいた三井住友海上の伊勢幸展様が JCCP の東京本部に助

成決定の通知書を携えて来訪されました。

今回の助成は、JCCP がナイロビ（ケニア）のスラムで実施中の「ケニアの暴動後の子どもに対する心理ケア」のプロジェクトに対するご支援として認められたものです。

この紙面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。



ケニアの子どもたちのために大切にに使わせて頂きます。

JCCP のロゴが新しくなりました。

2011 年 1 月より JCCP は新たなロゴを導入しました。ロゴマークは、Conflict prevention（紛争予防）と Peace building（平和構築）の頭文字である C と P を組み合わせたものですが、「平和の種が世界中に広がり現地で芽吹くように」という想いを込めて、タンポポをモチーフとしています。今後はこの新しいロゴと共に更にご支援の輪が広がっていくように努めて参ります。

このロゴデザインの開発にあたっては、ブランディングとデザイン開発の分野で数々の実績を持つユイット株式会社様から無償でのご支援を頂いています。

新しいロゴデザインの開発プロセスでは、JCCP のブランドコンセプトを再確認するために何度もコンサルティングを行なっていただくなど、多大なご協力を得ました。

この紙面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。



ユイット株式会社の皆様



JCCP のプロジェクト一覧 (2010 年 7 ～ 12 月)

事業名：コミュニティレベルの治安改善事業
事業地：ソマリア
期 間：2009 年 11 月 18 日～2010 年 12 月 31 日
助 成：国連開発計画 (UNDP)

事業名：国際平和支援研修センター (IPSTC) への平和支援研修及び組織強化事業
事業地：ケニア
期 間：2010 年 2 月 1 日～2010 年 12 月 31 日
助 成：国連開発計画 (UNDP)

【新規助成 (第 3 期)】

事業名：南部スーダンにおける子どもと若者へのライフスキル向上支援事業
事業地：スーダン
期 間：2009 年 12 月 22 日～2010 年 4 月 30 日 (第 1 期)
2010 年 5 月 21 日～2010 年 12 月 10 日 (第 2 期)
2010 年 12 月 11 日～2011 年 3 月 31 日 (第 3 期)
助 成：特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム (JPF)

事業名：選挙暴動後の IDP 及びスラムコミュニティにおける CBO 能力強化を通じた共生プロジェクト
事業地：ケニア
期 間：2010 年 2 月 20 日～2011 年 8 月 31 日
助 成：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

事業名：異なる民族間の交流促進
ノスツルガ地区の小学生による共同清掃とワークショップ
事業地：マケドニア
期 間：2010 年 1 月 11 日～2010 年 9 月 10 日
助 成：外務省・日本 NGO 連携無償資金協力

【新規助成】
事業名：マザレ・スラム地区における暴動被害者の能力開発を通じた生活復興支援
事業地：ケニア
期 間：2010 年 4 月 1 日～2010 年 12 月 31 日
助 成：日本国際協力財団 (JICF)

※事業開始順に記載しています。

新任スタッフからのご挨拶

ケニア事務所 プロジェクトマネージャー
三本 吉介 (みき よしすけ)

自己紹介：
みなさんこんにちは。JCCP のケニア事務所にプロジェクトマネージャーとして昨年 10 月に赴任いたしました。当地では、アフリカで展開する PKO ミッションの職員向け研修のプログラム管理、そしてソマリアでの治安プロジェクトに従事しています。これまで公共機関で職務経験を積んできており、コミュニティ開発と治安問題が私の専門でもありますので、これらプロジェクトを通して現地に貢献していきたいと思います。初めての NGO 勤務ですが、これからがんばっていきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

略歴：
西南学院大学卒業後、地方公務員として福岡県で勤務。アジア経済研究所開発スクールを経て、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院で司法ガバナンスを研究テーマに、平和構築・開発学を修了。JICA ガーナ事務所に評価専門員として案件評価業務に 1 年 4 か月間従事。

スーダン代表
日野 愛子 (ひの あいこ)

自己紹介：
はじめまして。この度スーダン・ジュバ事務所に赴任いたしました。JCCP の一員として、「スーダン南部における子どもと若者へのライフスキル向上支援事業」を担当しています。南部スーダンの独立を問う住民投票を受け、スーダン南部及び周辺地域の平和と安定を目指すプロセスは正念場に差し掛かっていますが、JCCP のプロジェクトが平和促進の一助になればとの思いを持ち、気を引き締めて業務に取り組んでまいります。

略歴：
米国の大学院にて国際平和及び紛争解決学修士号を取得後、アジア及びアフリカにおける平和構築プロジェクトを管理・運営し、特に赴任地であったスーダンでは国連スーダンミッション及び国連地雷対策事務所等の国連機関と共同で地雷対策活動に従事。2008 年からは在ウガンダ日本国大使館にて経済協力調整員を務め、援助効果促進に係る取り組みのフォロー及び対ウガンダ日本 ODA 案件を管理。

経理担当
川崎 唯行 (かわさき ただゆき)

自己紹介：
はじめまして。この度、縁あって JCCP の経理職としてお世話になります。歴史が好きで、司馬遼太郎の著作をよく読みました。メタボ対策のためにウォーキングを心がけています。以前は、30 歳で始めたスキーに凝ってました。秋田に赴任した際、シーズン中は、ほぼ毎週「たざわ湖スキー場」に通ったほどでした。好きな言葉は、「たゆまざる 歩みおそろし かたつむり」です。長崎の天と地を指す平和祈念像を作った北村西望の作ですが、「自分は天才ではないのだから人が 5 年でやることを、自分は 10 年かけてでも、やらねばならないのだ。」と遺しています。NGO、NPO に携わるのは初めてですが、よろしく願っています。

略歴：
福岡県大牟田市生まれ。建設会社で 29 年間、知的財産関連会社で 2 年間、環境関連会社で 3 年間と民間会社にて経理・総務職を歴任。

JCCP カレンダー [講演会、セミナー&メディア掲載、出演]

8 月 1 日 (日)
瀬谷事務局長のインタビュー記事が『ビッグイシュー日本版』148 号 (8 月 1 日発行) の特集「戦争を知らない大人たちへ」に掲載されました。

8 月 25 日 (水)
神奈川県立伊志田高等学校にて、「紛争地に平和を築く」というテーマで、大上博史事務局長が講演しました。(かながわ国際交流財団 高校国際教育支援事業)

9 月 2 日 (木)
参議院議員の政策秘書に向け、「日本の国際協力活動の現状と課題」と題して、瀬谷ルミ子事務局長が講演を行いました。(平成 22 年度参議院政策担当秘書研修事業)

9 月 18 日 (土)
長野県伊那弥生が丘高等学校にて、「未来の仕事はどう選ぶ? : 国際協力の仕事の場合」と題して、瀬谷ルミ子事務局長が講演しました。(伊那弥生ヶ丘高等学校 PTA 進路セミナー)

10 月 6 日 (水)
防衛大学校にて、瀬谷ルミ子事務局長が課外講演を行ないました。

10 月 13 日 (水)
陸上自衛隊駒門駐屯地 (御殿場) にて、国際活動協力隊の陸上自衛官に対し、瀬谷ルミ子事務局長が「諸機関アクターの役割、紛争地域の実情、民軍協力」についての講演を行いました。

10 月 16 日 (土)
NHK 総合テレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀／プロローグ」にて、瀬谷事務局長が紹介されました。

10 月 22 日 (金)
テレビ東京「この日本人がスゴイらしい」にて、瀬谷ルミ子事務局長が紹介されました。

10 月 28 日 (木)
明治大学大学院 政治経済学研究科にて、「スリランカの津波被害と NPO による被災者への社会心理ケア」をテーマに大上博史事務局長が講演を行いました。

12 月 9 日 (木)
戸田市立芦原小学校 (埼玉県) の皆さんが体験学習訪問の一環として、JCCP 東京本部を訪問されました。

12 月 27 日 (月)
ルワンダと日本の大学生の交流を通じて平和構築について考えるイベント「ルワンダピースコンサート 2010」に JCCP がブース出展させていただきました。(主催：日本ルワンダ学生会議)

12 月
JCCP の活動に共感された有志の皆さんにより、ウェブ (Youtube) 上でのクリック募金キャンペーンが展開されました。(Santa Project 2010) この募金はスーダンのストリートチルドレンへの支援プロジェクトに活用させていただきます。



オンラインでできるご支援方法をご紹介します！



オンラインでの入会・寄付はクレジットカード（VISA、MASTER のみ）決済となります

オンラインで寄付をする

お手持ちのクレジットカードから、今すぐ寄付いただけます。



オンライン入会する

一般会員のオンライン入会手続きができます。
年会費は1口1万円、サポーター会員は年会費5千円、学生サポーターは年会費3千円です。



マンスリーサポーターになる

月々一定金額のご寄付で、JCCP の活動を継続して支援いただく方法です。
金額は1000円/月からお選び頂けます。

※一般会員は総会での議決権はありません。
正会員のオンライン入会はできません。

●ご寄付、一般会員の会費、マンスリーサポーターとしてのご寄付は所得控除等の対象となります。

入会案内

JCCP は、紛争予防・平和構築活動の重要性に賛同し、JCCP の活動に参加いただける会員を随時募集しております。

入会方法

入会申込書に必要事項をご記入の上、郵送、FAX、または E-mail にてお申し込みください。入会申込書は JCCP の HP（トップページ→支援する→会員になる）からダウンロードできます。なお、賛助会員、特別会員については当センターまでお問い合わせください。

正会員

支持会員：年に一口2万円以上を納める個人または団体
賛助会員：年に一口30万円以上を納める個人または団体
特別会員：詳細は当センターまでお問い合わせください

一般会員

一般会員：年に一口1万円以上を納める個人または団体
サポーター：年に一口5千円以上を納める個人
学生サポーター：年に一口3千円以上を納める個人

会員特典

JCCP の主催する会議、シンポジウム、公開講座、講演会などについての情報を提供し、優先的に参加いただけます。また、正会員（賛助会員・支持会員）は総会の構成員として JCCP 総会に参加いただけます。

寄付のお願い

JCCP は、海外事業・国内事業を支援していただける方からの寄付金を随時受け付けております。

郵便振替で寄付をする

郵便振替口座：00100-8-425569

加入者名：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
（トクヒ）ニホンフンソウヨボウセンター

銀行口座から寄付をする

三菱東京 UFJ 銀行赤坂見附支店：普 1111380

名義人：特定非営利活動法人 日本紛争予防センター
（トクヒ）ニホンフンソウヨボウセンター

（銀行からのお振込の場合、JCCP にはカタカナ表記のお名前のみ通知されますので、領収書が必要な方は、お手数ですが JCCP までご連絡ください）

オンラインで寄付をする

JCCP の HP（www.jccp.gr.jp）のトップページから、「支援する」のページを選択していただき、オンラインで募金いただけます。

書き損じハガキ

JCCP では、年賀状や暑中見舞いなどの書き損じハガキを、切手や現金に交換し、現地の支援に役立てています。

郵送先

〒112-0014

東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F

日本紛争予防センター 書き損じハガキ係

例えば…

ハガキ 15 枚（約 500 円）で、ケニアの暴動でトラウマを負った子どもや女性一人が心のケアを1回受けることができます。

ハガキ 30 枚（約 1000 円）なら、紛争で親を亡くしたスーダンの子ども一人が、犯罪や暴力に巻き込まれないように守ることができます。

※活動のご報告をさせていただきますので、差し支えなければお名前とご連絡先を添えてお送りください。

JCCP の活動は会員の皆様、ご寄付いただいている皆様、助成団体の皆様のご理解とご支援によって支えられています。

皆様からお預かりした資金は紛争地の人々のために大切に活用させていただきます。今後とも JCCP へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
日本紛争予防センター

会長	明石 康	元国連事務次長
顧問	近衛忠輝	日本赤十字社社長
	高村正彦	元外務大臣
理事長	堂之脇光朗	元外務省大使
理事	伊勢崎賢治	東京外国語大学大学院教授
	入山 映	サイバー大学客員教授
	小川和久	危機管理総合研究所所長
	折田正樹	中央大学教授
	柴田秀孝	（株）エムアンドアール 顧問
	塚本俊也	青山学院大学教授
	目加田説子	中央大学教授
監事	植村高雄	（特活）CULL カリタス カウンセリング学会会長

住所 〒112-0014
東京都文京区関口 1-35-20 藤田ビル 3F
電話 03-5155-2142 FAX 03-5155-2143
E-mail contact@jccp.gr.jp
URL <http://www.jccp.gr.jp>

発行日 2011 年 1 月 31 日
発行人 堂之脇光朗
編集人 瀬谷ルミ子
Volume 6, Issue 2+3（合併号）
Copyright © 2010 Japan Center for Conflict Prevention
1 部 100 円